JGS 関東支部 協働委員会

第4回委員会 議事録

日時: 2022/2/4(金) 14:00~16:00

場所: zoomリモート会議

参加者: 末岡委員長,宮田幹事長, 笠間 WG2 サブリーダー

上野委員, 横田委員, 田中(耕)委員, 柿原委員, 宇田川委員, 古木委員

石井 WG1 サブリーダー

議事:

1. 委員長より

- ・ 当委員会の活動成果の今後の展開に期待を寄せる声を多く耳にしており、委員各位の精力的な取り組みの結果と して大変、感謝している。
- ・ 地盤工学会本部も成果に興味を持ち、提言を本部・支部協働で扱う話が出ている。
- ・ このことは、支部の範疇にとどまらず成果が関連学会全体に広く波及し、地盤工学と応用地質学の融合が進むこと につながり喜ばしい状況と認識している。
- そうした点を念頭に、本日の討議にあたっていただきたい。

2. 前回議事録の確認

内容を確認した。

3. 外部からのコメント・意見の反映

- ・ 具体的に書面で受領した土木研究所からのコメントについて委員会にて協議・対処する。
- ・ コメントからは、土木研究所自身が進める地質・地盤リスクの取組みに対して、後押しになることに期待を寄せている ように読み取れる。
- · No.1~9 について,以下の分担で委員会報告書への反映にあたる。
 - No.1→末岡委員長が提言に反映する。
 - No.2→宮田幹事長が提言に反映する。
 - No.3→末岡委員長が提言に反映する。「維持・管理」をキーワードとして盛り込む。
 - No.4→末岡委員長が提言に反映する。「維持・管理」をキーワードとして盛り込む。
 - No.5→特に対応しない。コメント自体は前向きな感想と理解できる。
 - No.6→栗原リーダーが WG1 報告書に反映する。地盤構造物の定義について記述を加える。
 - No.7→特に対応しない。コメント自体は肯定的な意見と理解できる。
 - No.8→栗原リーダーが WG1 報告書に反映する。工学的地質図の扱いについて記述を加える。
 - No.9→末岡委員長が提言に反映する。土木研究所の取組みを後押しする意図で表現を修正する。

4. 報告書・提言の扱いについて

・ 論点①:「提言(案)」を含む関東支部「報告書」の構成順序

論点②:「提言」を本部あるいは本部・支部で公表することに向けた本部とのやり取り・今後の体制

- ・ 学術的な議論が道半ばで提言に落とし込めていない上,教育機関関係者に向けた具体的なアクションが明記できていない。それゆえに提言としては学術的な面は控えめに実務面を押し出す形になり、学術・教育関係者に物足りなさを感じさせること、提言に対する共感・賛同を得にくいことを認識すべきである。このことは提言の扱いに関する本部とのやり取りでは、積み残しとして共有すべきである。
- ・ そうした不足している部分, 積み残しがある点をどうするかを含めて, 本部の判断を経て本部提言, あるいは本部・ 支部連名提言として扱うのがよい。
- ・ 上申書中の表現として「提言(案)」を作成したと明言し、その後の判断を仰ぐ形が適切と考えられる。
- ・ 上申書の表現として、「支部委員会活動としての成果を活用してほしい」、「提言(案)を本部組織で検討してほしい」 といった選択肢がある。速やかに公表する流れで考えるか、調査・検討にもう少し時間を割くことを前提とするか、といった点も論点に菊池支部長と調整するのが良い。
- 委員会としての意向:
 - 関東支部として「提言(案)」を含めて報告書を公表する
 - 委員会としての上申書案を作成する。
 - その上で菊池支部長の意向を確認する。
 - 菊池支部長名で上申書を提出し,本部の判断を仰ぐ。
- ・ 上申書案は本委員会協議内容を踏まえて委員長,幹事長が中心に作成し,菊池支部長との相談を進める。論点を明確する意図も考慮して,菊池支部長との打ち合わせは上申書案を添えて臨む。

5. その他

5-1 委員会活動継続の意向確認

委員会活動予定期間を終える 2022/3 以降の活動について, 幹事長より意向調査を別途配布するので回答をお願いする。

5-2 自由投稿について

数名を残して原稿がそろっている。2月末を〆切に原稿を集めて取りまとめる。

5-3 今後の予定

- ・ 2月中旬: 菊池支部長, 学会本部と提言の扱いを協議する。
- 3月中: 関東支部委員会としての報告書を公表する。
- ・ 提言の緒言は本部との協議に基づき修正・調整する。
- ・ 支部・本部のシンポジウム開催を検討する。

5-4 論文投稿の報告

- ・ 栗原リーダーが発案し WG1 で議論した設計概念について、「人工物工学の設計論に基づく地盤構造物の設計 概念の再構築」と題して土木学会論文集に投稿した。
- ・ 栗原リーダー,末岡委員長,石井サブリーダーの共著で,委員会各位向けの謝辞を添えた。
- ・ 修正依頼を受けて現在,再提出版が再査読中になっている。

5-5 学術・教育に関わる提言についての補足

- ・ 京都大学の関係者には問合せて、地盤工学と応用地質学に対応する「工学」と「理学」の相互連携は実現可能だと の認識を得ている。
- 学術・教育に関わる提言ではそのことを踏まえての記述になっている。

- ・ 次のアクションを明記したり連想させたりさせることが提言には不可欠で、地質学教育の推進については「いつから」、「どの機関」でまで触れることが求められる。
- ・ 以上の本日協議内容を踏まえて、アクションプランを見据えて提言案と上申書案の作り込みにあたる。

以上